


診療計画説明書 腰椎椎間板ヘルニア(髄核摘出術)

経過	入院日	手術前日	手術当日(0日目)	手術1日目	2日目	3日目	4日目	5~7日目	8~10日目(退院予定日)
月日	/	/	/	/	/	/	/	/ ~ /	/ ~ /
退院基準			・創部の出血がない	・感染徴候がない	・しびれの増悪がない				
達成目標	・手術の必要性がわかる	・手術の準備が出来る	・しびれの悪化や発熱の持続がない						・退院後の生活についてイメージできる
検査	・手術前に必要なレントゲン・血液検査・心電図などを行います 		・医師の指示により血液、レントゲン検査を行います 						
処置	・主治医より指示がある場合コルセットをもっていない方は採寸します	・手術部位の毛をそります(医師の指示がある場合)	・手術後創部にチューブが入ってきます ・血栓予防のために弾性ストッキングを履きます(歩行可となるまで)	・医師が創部のチューブを抜きます ・創のチェック、処置があります 					・創のフィルムを除去します 
薬剤(内服薬・注射薬)	・以前からの持病の内服薬があればみせてください(指示にて中止とすることがあります) 		・手術前より後に点滴・注射があります ・手術後も引き続き抗生剤などの点滴を行います 	・医師の指示にて順次中止していた内服薬を再開していきます 					
食事	・常食です 	・夕食後から、医師の指示にて飲食の制限があります 	・絶飲食です 	・常食です 					
安静度	・制限はありません 		・手術後は集中治療室に入ります ・帰室後はベット上安静です ・医師の指示があれば看護師の介助でベッドの頭を上げたり横向きになれます 	・創部のチューブがついている間はベッド上安静ですが座ることまではできます ・創部のチューブを抜いてからはコルセットをつけて、痛みに応じてベッドから移動できるようになります(適宜リハビリがあります。状況に応じて車いす、歩行器を使用します)  					
リハビリ				・リハビリ開始です ・起き上がりの練習をします	・創部のチューブが抜いてからはベッドから離れてコルセットを装着してのリハビリとなります				
排泄	・制限はありません		・手術中に尿管がはいってきます 	・歩行許可があれば尿管を抜いてトイレまで行けます 					
清潔	・制限はありません	・手術前にはシャワーに入ってください 		・看護師の介助しながら体を拭きます 					・主治医が創を確認し許可がでたらシャワーできます(適宜看護師が介助します) 
説明同意	・入院についての説明します ・ご不明な点は主治医、看護師にお尋ねください 	・主治医から手術の説明があります ・麻酔科医の診察があります ・手術室、集中治療室、病棟の看護師から手術の説明があります ・各種同意書(手術、麻酔、輸血など)を看護師に提出してください ・血栓予防の足首の運動の説明をします	・手術後、主治医から手術についての説明があります 	・手術後は集中治療室(またはHCU)に入室する予定です(集中治療室に入る場合は入院時のお部屋を空けていただく必要があります) 					・退院後の生活・活動の説明、指導を行います  

* 病名は現時点で考えられるものであり、今後検査を進めていくにしたがって変わり得ます。
* 入院期間は治療内容や現時点で予測されるもので、症状により変わります。
* 入院日が手術前日となることがあります